

平成24年度事業報告書

〔 平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで 〕

公益財団法人 神奈川県下水道公社

平成 24 年度 事業報告書

1 概要

当社は、下水道公社定款に基づき、流域下水道及び流域関連公共下水道の維持管理に関する業務のほか、下水道知識の普及・啓発活動及び下水道技術に関する調査研究を行い、県及び市町の下水道事業に協力し、もって県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与し、公衆衛生の向上及び環境保全を目的として事業を行いました。

事業の実施にあたっては、「公益財団法人神奈川県下水道公社経営改善計画」に基づき、効率的な運営に努めると共に、より一層の経費の削減に取り組ましました。

2 受託事業

神奈川県が設置する流域下水道の処理施設の運転操作等維持管理業務及び流域関連公共下水道の水質分析等技術的業務を受託し、創意と工夫をもって主体的に業務に取り組む、県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与するため、次の事業を行いました。

(1) 流域下水道の下水処理等維持管理事業

神奈川県から相模川及び酒匂川流域下水道の下水処理等維持管理業務を受託し、流域関連市町からの流入下水を適正に処理し、下水処理場施設、幹線管渠及び関連するポンプ場など、処理場施設の維持管理を行うほか、県民に下水道の役割などを理解していただくための広報活動などを行いました。

ア 主な維持管理施設等の概要

平成 24 年度に県から受託した主な下水道維持管理施設等は、次表のとおりです。

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

処 理 場 施設・設備	相模川流域下水道		酒匂川流域下水道	
	四之宮	柳 島	酒 匂	扇 町
敷地面積 (ha)	26.9	19.6	9.8	7.0
水処理施設 (系列数) (m ³)	6 系列	9 系列	2 系列	2 系列
施設能力 (日最大) (日平均流入量)	322,800 (242,450)	539,100 (399,420)	72,000 (50,770)	56,480 (40,400)

汚泥脱水設備	ベルト 6 台 遠心 2 台 スクリー1 台	ベルト 1 台 遠心 3 台 ロータリー1 台 スクリー1 台	スクリー 4 台	ベルト 2 台
汚泥焼却設備 (日最大能力 計)	3 基 (280 t/日)	4 基 (660 t/日)	2 基 (90 t/日)	2 基 (60 t/日)
管渠 (流域幹線)	37,960m	89,470 m	26,920 m	19,340 m
ポンプ場	2 箇所	6 箇所	1 箇所	—
上部利用施設	ふれあい広場 5.25 ha	しおさい広場 7.0 ha	きらり広場 1.3 ha	しらさぎ広場 1.2 ha

(注) 汚泥脱水設備の「ベルト」はベルトプレス、「スクリー」はスクリープレス、「ロータリー」はロータリープレス

イ 下水処理

(ア) 流入下水量

平成 24 年度の相模川及び酒匂川流域下水道の流入下水量は、次表のとおりです。

流 域	下水処理場 (管理センター)	流入下水量 (m ³)		前年対比 (%) (A)/(B)
		H.24 実績 (A)	H.23 実績 (B)	
相模川	四之宮	88,494,840 (242,450)	91,243,730 (249,300)	△2,748,890(97.0%)
	柳 島	145,787,690 (399,420)	150,786,130 (411,980)	△4,998,440(96.7%)
	相模川計	234,282,530 (641,870)	242,029,860 (661,280)	△7,747,330(96.8%)
酒匂川	酒 匂	18,532,340 (50,770)	18,043,530 (49,300)	488,810(102.7%)
	扇 町	14,745,230 (40,400)	16,112,450 (44,020)	△1,367,220(91.5%)
	酒匂川計	33,277,570 (91,170)	34,155,980 (93,320)	△878,410(97.4%)
合 計		267,560,100 (733,040)	276,185,840 (754,600)	△8,625,740(96.9%)

(注) 流入下水量は年間の数量で、() 内の数字は日平均水量を示す。

(イ) 流入水及び放流水の水質測定結果

流入下水を処理するにあたっては、標準活性汚泥法により適切に処理し、全て法で定める排水基準値以内で処理することができました。

① 相模川流域下水道水質測定結果

処理場 主な項目		四之宮		柳島		水質汚濁防止法 排水基準 (許容限度)
		流入水	放流水	流入水	放流水	
BOD (mg/L)	平均	180	6.5	180	4.2	四之宮 20 (25) 柳島 (25)
	最大	250	17	230	8.4	
	最小	94	1.6	150	2.0	
COD (mg/L)	平均	93	9.8	110	8.6	四之宮 (25) 柳島 20 (25)
	最大	140	12	140	10	
	最小	56	4.4	72	5.0	
S S (mg/L)	平均	187	3.2	217	3.3	50 (70)
	最大	228	6.8	272	6.2	
	最小	138	1.0	176	1.2	
P H	平均	7.3	6.7	7.4	6.7	5.8~8.6
	最大	7.7	7.0	7.7	7.0	
	最小	7.0	6.4	7.0	6.4	
大腸菌群数 (個/c m ³)	平均	64 万	95	71 万	130	(3,000)
	最大	170 万	680	200 万	640	
	最小	14 万	9	9.8 万	18	

(注) 1 BOD は生物化学的酸素要求量、COD は、化学的酸素要求量、SS は、浮遊物質、PH は、水素イオン濃度 (水素指数)。

2 流入水及び放流水の数値は、年平均値を示す。

3 排水基準は、水質汚濁防止法及び神奈川県生活環境の保全等に関する条例の基準値で、() は、最大値を示す。

② 酒匂川流域下水道水質測定結果

主な項目		酒匂		扇町		水質汚濁防止法 排水基準 (許容限度)
		流入水	放流水	流入水	放流水	
BOD (mg/L)	平均	160	4.7	130	4.0	20 (25)
	最大	230	12	170	8.7	
	最小	110	1.4	90	1.6	
COD (mg/L)	平均	91	9.8	90	12	(25)
	最大	130	14	140	16	
	最小	62	6.4	56	8.2	
S S (mg/L)	平均	170	2.6	163	4.0	50 (70)
	最大	284	4.8	224	9.2	
	最小	116	1.0	120	1.2	
P H	平均	7.4	6.9	7.4	7.0	5.8~8.6
	最大	7.8	7.2	7.7	7.2	
	最小	7.0	6.6	7.0	6.7	
大腸菌群数 (個/c m ³)	平均	19 万	5	63 万	520	(3,000)
	最大	140 万	74	370 万	1,300	
	最小	4.9 万	1 未満	16 万	97	

(注) 相模川流域下水道の注記に同じ

ウ 汚泥処理

(ア) 汚泥等発生量

発生した汚泥等は、全量焼却処理しました。

流域	下水処理場 (管理センター)	汚泥等発生量 (t/年)		前年対比 (%) (A)/(B)
		H.24 実績 (A)	H.23 実績 (B)	
相模川	四之宮	57,689	55,280	2,409 (104.4%)
	柳 島	115,190	117,946	△2,756 (97.7%)
	相模川計	172,879	173,226	△347 (99.8%)
酒匂川	酒 匂	18,502	18,627	△125 (99.3%)
	扇 町	8,505	9,379	△874 (90.7%)
	酒匂川計	27,007	28,006	△999 (96.4%)
合 計		199,886	201,232	△1,346 (99.3%)

(イ) 焼却灰等処分量

焼却処理により発生した焼却灰等は、発生量をほぼ処分しました。

また、平成 23 年度に保管した焼却灰等の一部も処分しました。

流域	下水処理場 (管理センター)	焼却灰等処分量 (t/年)		前年対比 (%) (A)/(B)
		H.24 実績 (A)	H.23 実績 (B)	
相模川	四之宮	1,719	378	1,341 (454.8%)
	柳 島	4,411	1,418	2,993 (311.1%)
	相模川計	6,130	1,796	4,334 (341.3%)
酒匂川	酒 匂	1,046	207	839 (505.3%)
	扇 町	333	167	166 (199.4%)
	酒匂川計	1,379	374	1,005 (368.7%)
合 計		7,509 (①4,192 ②2,525 ③792)	2,170 (①2,081 ②67 ③22)	5,339 (346.0%)

(注) 合計欄の () は合計数量の内訳で、①は乾灰、②は加湿灰、③は焼却沈砂

エ 放射能対策

放流水や焼却灰等（保管中の灰も含む）の放射能濃度や上部利用施設、処理場敷地境界線等での放射線量の測定を実施し、状況の把握に努めるとともに適正な管理を行いました。

また、これまで搬出できなかった保管中の焼却灰等の減量に努めました。

オ 機器設備の点検・補修

処理場に設置されている機器設備は、当社の精密点検・設備補修基準に基づき点検・補修工事を行い、効率的で緻密な管理を行いました。

カ 環境対策

下水道の役割を果たすため、良好な放流水質の確保、汚泥焼却による減量化と灰の資源化、処理場周辺の臭気調査など環境保護に努めると共に下水処理業務に従事する従業員の作業環境の向上に努めました。

(ア) 環境保護

① 良好な放流水質の確保

より良好な放流水質を確保し、公共用水域の水質保全に努めました。

また、人体に影響を及ぼす恐れのあるクリプトスポリジウムについて調査しました。

調査の結果、流入水、放流水共に含まれていないことが確認されました。

② 汚泥焼却による減量化

下水汚泥は全量焼却して汚泥量の減量化に努めました。

③ 処理場周辺臭気調査

処理場周辺住民の生活環境を維持するため、処理場敷地境界線における臭気調査を実施し、発生する臭気の監視強化に努めました。

<敷地境界等臭気調査結果>

処 理 場 (調査地点数)	臭気指数 (最小～最大)	悪臭防止法 規制基準値
四之宮管理センター (7 地点)	10 未満 (10 未満)	15
柳島管理センター (4 地点)	10 未満 (10 未満)	15
酒匂管理センター (4 地点)	10 未満 (10 未満)	15
扇町管理センター (4 地点)	10 未満 (10 未満)	15

(注) 臭気指数は、年平均値

(イ) 作業環境の向上

① 水質実験室作業環境測定

水質分析時に有機溶剤を取り扱うことから実験室内の作業環境について測定しました。

測定の結果は全て「適切」であり、良好な作業環境が維持されていました。

② 焼却施設作業環境測定

焼却炉点検作業や焼却灰の搬出作業を行う者がダイオキシン類にばく露することを防止するため、ダイオキシン類に係る作業環境について測定しました。

測定結果については当公社の「ダイオキシン類対策委員会」で検討し、適正な保護具を選定するなどの対応策を講じました。

キ 広報

① 施設見学の案内

処理場に訪れた施設見学者に対し、当社が作成したパワーポイントを活用して神奈川県内の流域下水道の現況や下水道の役割などを説明し、また、処理場施設を見ていただくなど、下水道に関する普及啓発に努めました。

見学者数は、酒匂管理センター以外は前年度に比べ減少しました。今後も当公社ホームページや広報紙等に施設見学の案内を掲載し、また、下水道出張教室などでPRするなど、より多くの県民に見学していただけるように努めます。

<処理場施設見学者の内訳>

(人)

管理センター	行政 機関	学生		一般 県民	団体	計
		小学生	その他			
四之宮	102 (61)	178 (124)	18 (22)	200 (79)	5 (222)	503 (508)
柳 島	69 (12)	774 (965)	365 (505)	6 (239)	157 (0)	1,371 (1,721)
酒 匂	64 (3)	108 (146)	23 (4)	47 (25)	0 (16)	242 (194)
扇 町	79 (74)	85 (152)	10 (4)	24 (3)	11 (5)	209 (238)
合 計	314 (150)	1,145 (1,387)	416 (535)	277 (346)	173 (243)	2,325 (2,661)

(注) () は、前年度の見学者数

② 「下水道ふれあいまつり」の開催

処理場内の上部利用施設を活用して、地元住民の演奏・踊り、子供が遊べるゲーム、下水道学習室や処理場施設見学などを行い、県民の下水道に関する理解と関心を深め、下水道に関する知識の普及啓発を図りました。

昨年度に引き続き、気候が良い 10 月に開催し、当日は晴天に恵まれ、また、来場者増加のための PR やスタンプラリー導入、出演団体の公募等の新規の取組や工夫により、前年度に比べ来場者が大幅に増加しました。これからも PR や取組等を工夫するとともに県・市町と連携してふれあいまつり開催の広報を強化し、さらなる来場者の増に努め、下水道に関する知識の普及啓発を図ります。

<下水道ふれあいまつり開催結果>

開催年月日	平成 24 年 10 月 20 日（土）		
開催場所	相模川流域 柳島管理センター (柳島しおさい広場)	酒匂川流域 酒匂管理センター (酒匂きらり広場)	来場者計
来場者数	1,503 人 (四之宮：455 人)	940 人 (扇町：507 人)	2,443 人 (962 人)

(注) 来場者数の () は、前年度の実績
平成 23 年度は、大雨のため来場者が減少。

③ パンフレット等の作成・配布

県民の下水道に関する理解を深めるため、下水道のしくみや情報を分かりやすくまとめたパンフレットや広報紙を作成、配付しました。

パンフレット等の名称	作成部数	主な配布先
進め！下水道探検隊	13,000	県、流域関連市町及び小学校
かながわの流域下水道	10,000	県、流域関連市町及び小学校
下水道だより 「きらめき」	30,000	県、流域関連市町及び小学校

④ ホームページ

県民がより利用し易いページとなるようトップページを中心に改善を図り、処理場の維持管理に関する様々な情報について情報提供しました。

<主なメニューの内容>

- ・入札情報（入札予定、公告、事前公募、入札要領、積算資料、様式 等）
- ・お知らせ（広場の紹介、下水処理場の紹介、下水処理場施設見学の申込 等）
- ・下水道の維持管理（処理場の運転管理、下水道管渠の維持管理、水質分析結果 等）
- ・イベント（下水道ふれあいまつり、下水道作品コンクール、下水道教室 等）
- ・下水道のしくみ（下水道のしくみ、用語の説明、下水道 Q & A 等）
- ・公社情報（公社の情報提供資料）

ク 水質規制

① 水質規制担当者特別研修会の開催

流域関連市町が行う事業場の監視・指導に関する知識・技術の向上等を目的として、事業場排水の水質規制を担当している職員を対象として研修会を開催しました。

<水質規制担当者特別研修会>

開催日	平成24年11月29日(木)
開催場所	扇町管理センター
対象者	県及び流域関連市町の水質規制担当職員
受講者数	19名
内容	① 事業場等の水質検査 ② ディスカッション(条例で定める排除基準項目の排出量50m ³ /日未満の事業場の適用について) ③ 水質異常時の対応 ④ 悪質水の処理場の与える影響(実習) ・pHの測定 ・シアン流入時の活性汚泥の観察 ⑤ 模擬幹線調査 ⑥ 処理場見学

② パンフレットの配布

公共下水道を使用する事業者向けに、水質基準や届出等をわかりやすく説明したパンフレットを流域関連市町に配布しました。

ケ 上部利用施設利用状況

各処理場の水処理施設上部に設置されている上部利用施設の利用状況は次のとおりでした。

施設名	処理場	利用者数(人)	備考
ふれあい広場	四之宮管理センター	51,857 (51,179)	多目的広場、テニスコート(6面)、フットサルコート(1面) ほか
しおさい広場	柳島管理センター	67,351 (69,447)	多目的広場、テニスコート(4面)、少年サッカーコート(1面)、遊水池 ほか
きらり広場	酒匂管理センター	20,658 (17,566)	多目的広場、遊び広場、お花見広場、噴水池 ほか
しらさぎ広場	扇町管理センター	31,366 (24,922)	芝生広場、ちびっこ広場、遊具広場、軽運動広場、噴水池 ほか
計		171,232 (163,114)	

(注) () は、前年度の利用者数

(2) 下水道の水質分析等受託事業

相模川及び酒匂川流域に関連する市町から特定事業場の下水の水質分析を受託し、特定事業場の排水の採水及び水質分析を行いました。

また、市町が実施する特定事業場等の監視指導への協力や追加分析等の技術的支援を行いました。

<特定事業場等水質調査業務受託概要>

区分 流域	受託市町数			調査箇所数			水質分析数		
	実績 A	前年 B	差異 A-B	実績 A	前年 B	差異 A-B	実績 A	前年 B	差異 A-B
相模川流域 関連市町	9	9	0	146	152	△6	10,787	10,912	△125
酒匂川流域 関連市町	5	6	△1	39	42	△3	3,916	3,840	76
計	14	15	△1	185	194	△9	14,703	14,752	△49

3 自主事業

当社は、広く県民に下水道の役割や下水道の仕組み等下水道に関する知識の向上を図り、また、下水処理施設の維持管理における技術的な調査研究を行い、下水道維持管理コストの削減や県が行う下水道施設の建設・改築更新への助言・提言を行うなど、下水道事業の推進に協力し、県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与するため、次の事業を行いました。

(1) 下水道知識普及啓発事業

広く県民に、下水道の役割や下水道の仕組みなど、下水道に関する知識の普及啓発を目的として、次の事業を行いました。

ア 「下水道ふれあいまつり」の開催 (P. 7 キー広報の②再掲)

処理場内の上部利用施設を活用して、地元住民の演奏・踊り、子供が遊べるゲーム、下水道学習室や処理場施設見学などを行い、県民の下水道に関する理解と関心を深め、下水道に関する知識の普及啓発を図りました。

昨年度に引き続き、気候が良い10月に開催し、当日は晴天に恵まれ、また、来場者増加のためのPRやスタンプラリー導入、出演団体の公募等の新規の取組や工夫により、前年度に比べ来場者が大幅に増加しました。これからもPRや取組等を工夫するとともに県・市町と連携してふれあいまつり開催の広報を強化し、さらなる来場者の増に努め、下水道に関する知識の普及啓発を図ります。

<下水道ふれあいまつり開催結果>

開催年月日	平成 24 年 10 月 20 日 (土)		来場者計
開催場所	相模川流域 柳島管理センター (柳島しおさい広場)	酒匂川流域 酒匂管理センター (酒匂きらり広場)	
来場者数	1,503 人 (四之宮 : 455 人)	940 人 (扇町 : 507 人)	2,443 人 (962 人)

(注) 来場者数の () は、前年度の実績

平成 23 年度は、大雨のため来場者が減少。

イ 下水道作品コンクールの実施

将来を担う子供達に下水道に対する関心を深めることを目的として、流域関連 21 市町の小学校 4 年生を対象として、作文、ポスター、書道の作品を募集するコンクールを実施しました。

応募作品は、第三者機関による公正な審査を経て優秀作品を選出し、入賞者には表彰式を開催 (平成 24 年 12 月 15 日 (土) 茅ヶ崎市民文化会館) して表彰しました。

平成 24 年度の作品応募数は、下水道出張教室等での事前 PR の取組により、前年度に比べ増加しました。今後も、作品を募集する際にコンクールの主旨、目的のほか、過去の優秀作品や表彰式の写真などを添えて各市町の小学校へ PR し、さらにより多くの作品を応募していただけるよう努めます。

<作品応募・入賞数>

区分	作文	ポスター	書道	計	備考
応募数	136 (118)	1,398 (1,040)	3,223 (2,651)	4,757 (3,809)	参加学校数 : 184 (183) 参加市町数 : 21 (21)
入賞数	10 (10)	20 (20)	40 (40)	70 (70)	

(注) () は、前年度の実績数

ウ 下水道担当職員研修会の実施

県及び市町村の下水道事業を所管する担当職員を対象に、下水道に関する幅広い知識の修得を目的として、次の研修会を実施しました。

<下水道担当職員研修会概要>

研修会名	開催年月日 (開催場所)	対象者 (受講者数)	研修概要
一般 コース	平成24年7月25日 (四之宮管理センター)	下水道に関する 基本的な知識を 希望する職員 (41人)	・下水道法と関係法規 ・下水処理場の仕組みと水質管理 ・処理場施設見学
専門技術 コース	平成24年11月20日 (埼玉県比企郡川島町： 株G&U 技術研究センター)	下水道に関する 専門的な知識を 希望する職員 (33人)	・マンホールふたの計画的な維持管理 について ・株G&U 技術研究センター見学 ・調査研究発表
管理者 コース	平成25年2月19日 (四之宮管理センター)	下水道を所管す る管理職員 (40人)	・国土交通省の海岸における最近 の取組 ・調査研究発表

エ 下水道教室の実施

① 下水道出張教室

当会社職員が流域関連市町の小学校へ出向き、小学4年生の授業の中で、下水道の果たす役割や下水道の仕組みなどを説明すると共に、子供達が顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物を観察する「下水道出張教室」を実施しました。

- 実施学校数：19校 [52クラス、1,617人]
(前年度：18校 [43クラス、1,384人])

② 親子下水道教室

流域関連市町に在住する方を対象として、親子で下水処理場へ来ていただき、当会社職員が下水道の果たす役割や下水道の仕組みなどを説明すると共に、顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物を観察したり、水の汚れ具合を簡単に見分ける簡易的な水質実験を行い、実際に下水処理場施設を見学していただく「親子下水道教室」を実施しました。

<親子下水道教室実施結果>

開催場所	実施日	参加募集対象者	参加者数
相模川流域 四之宮	平成24年 7月14日	相模川流域 小学校4年生と保護者	60人 (前年：柳島 47人)
酒匂川流域 扇町	平成24年 7月7日	酒匂川流域 小学校4年生と保護者	40人 (前年：酒匂 45人)

オ 市町主催の環境イベントへの参加

流域関連市町が主催する環境等に関するイベントに当公社が参画し、来場者に下水道の果たす役割や下水道の仕組みなどを説明すると共に、顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物を観察していただき、環境に対して下水道が果たす役割などについてPRしました。

<市町環境イベント参加結果>

主 催	イベント名	開 催 日	イベント来場者数
伊勢原市	いせはら環境展	平成 24 年 5 月 12 日 ～ 13 日	685 人 (約 2,200 人)
茅ヶ崎市	ちがさき環境フェア	平成 24 年 6 月 23 日	472 人 (約 2,000 人)
相模原市	さがみはら環境まつり	平成 24 年 9 月 30 日	330 人 (約 1,500 人)
松田町	まつだ産業まつり	平成 24 年 11 月 3 日	407 人 (約 7,000 人)
愛川町	ごみの工夫と生活展	平成 24 年 11 月 11 日	184 人 (約 4,000 人)
			計 2,078 人 (約 16,700 人)
前年度は、4 市 1 町で実施			

(注) イベント来場者数の () は、主催者発表の人数 (100 名以下は端数処理)

(2) 汚水・汚泥処理技術調査研究事業

下水処理場施設の維持管理を行う上で発生する様々な技術的課題事例を捉え、当公社職員がこれまで蓄積してきた豊富な経験や専門的な知識に基づき、下水道維持管理コストを削減するノウハウや施設の改善策などに資するテーマについて調査研究を行いました。

調査研究の研究成果については、調査研究報告書を作成して結果をまとめ、研究成果を公表するとともに、様々な研究発表会で発表しました。

ア 調査研究実施概要

平成 24 年度に行った調査研究のうち、次の 3 項目について研究報告をまとめました。

- ① 四之宮管理センターにおける汚泥処理施設の検証について
- ② 下水道公社による省エネルギー対策の取組について
ー最初沈殿池における汚泥掻寄機の運転方法の見直しに関する調査ー
- ③ スクリュープレス脱水機の効率的な運用に関する検討

<調査研究結果の概要>

① 四之宮管理センターにおける汚泥処理施設の検証について

実施所属	調査等の概要	効果等
四之宮管理センター	汚泥処理施設の稼働率や計画値と実績値の相違点等について検証し、適正な汚泥処理施設のあり方について検討を行った。	北系重力濃縮槽の設置台数の見直し（4→5槽）や南系機械濃縮設備（加圧浮上濃縮設備）の北系汚泥処理施設としての活用などを県へ提言し、基本設計や事業計画に反映された。

② 下水道公社による省エネルギー対策の取組について

－最初沈殿池における汚泥掻寄機の運転方法の見直しに関する調査－

実施所属	調査等の概要	効果等
四之宮管理センター	汚泥掻寄機は通常連続運転としているが、四之宮管理センターの最初沈殿池は特異な構造で、間欠運転が可能であると判断し、実機（水処理 1,2 系）を用いて汚泥掻寄機の間欠運転による維持管理への影響と電力削減効果について検証を行った。	間欠運転と連続運転では、維持管理への影響がないことがわかった。 汚泥掻寄機の間欠運転により 75%電力削減された。

③ スクリュープレス脱水機の効率的な運用に関する検討

実施所属	調査等の概要	効果等
四之宮管理センター	北系汚泥処理施設の増設計画に合わせて設置されたスクリーンレス脱水機は、凝集剤混和層が既設の遠心脱水機と共有で併用できないため、両者に併用できる凝集剤の種類と運転方法等について調査した。	スクリーンレス脱水機の運転を工夫することで、両脱水機に有効かつ安価な高分子凝集剤が使用でき、並列運転が可能となった。

イ 研究発表

(ア) 研究発表

平成 24 年度に行った調査研究発表は、次のとおりでした。

<発表会：第 49 回下水道研究発表会>

主 催	実施日	開催場所	発 表 テ ー マ
(公社) 日本 下水道協会	平成 24 年 7 月 26 日	神戸国際会議場 (神戸市中央区)	・汚水ポンプ揚程の低減化による 省エネルギー効果 ・非常用ポンプ場施設の汚水送水 時における硫化水素濃度の挙動 について

<発表会：第 15 回県土整備技術発表会>

主 催	実施日	開催場所	発 表 テ ー マ
神奈川県 県土整備局	平成 25 年 1 月 10 日	神奈川県庁本庁舎 3 階 大会議場 (横浜市中区)	柳島管理センターにおける汚泥 処理施設の検証

(イ) 研究報告書の作成・配布

研究成果については調査研究報告書を作成し、関係機関に配布すると共に
公社内情報提供コーナーに備え置き、一般県民に情報提供しています。

<調査研究報告書>

名 称	作成部数	主 な 配 布 先
調査研究報告書	200	県、流域関連市町、全国公社

<管理部門>

1 職員の状況

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

組 織	長の氏名	構 成 職 員 数					
		事務	土木	機械	電気	化学	計
総務部長兼総務課長	若山 廣文					1	1
業 務 部 長	—						0
総 務 課 長	—	6				1	7
企 画 課 長	野村 弘明	3	1			1	5
業務部次長兼業務課長	永瀬 文雄		2	1	2	1	6
水 質 課 長	田代 秀行					7	7
四之宮管理センター所長	笠原 俊男		1	3	3	3	10
柳島管理センター所長	佐藤 保夫		1	3	4	4	12
酒匂管理センター所長	海野 淳		1	2	1	2	6
扇町管理センター所長	今永 英二		1	1	1	3	6
合 計		9	7	10	11	23	60

(注) 構成職員には非常勤職員を除く。

2 役員及び評議員の状況

ア 役員数

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	常 勤	非常勤	計
理 事 長	1	—	1
常 務 理 事	2	—	2
理 事	—	6	6
監 事	—	2	2
計	3	8	11

イ 評議員数

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	常 勤	非常勤	計
評 議 員	—	9	9

ウ 役員一覧表

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	氏 名	常勤・非常勤の別	備 考
理 事 長	小 野 義 博	常 勤	
常 務 理 事	小 宮 久 雄	常 勤	
〃	山 崎 仁	常 勤	
理 事	櫛 田 正 夫	非 常 勤	厚木市 河川みどり部長
〃	植 原 尊 久	〃	海老名市 建設部長
〃	加 藤 廣 志	〃	南足柄市 都市経済部長
〃	金 子 淳	〃	綾瀬市 建設部長
〃	石 田 均	〃	大井町 生活環境課長
〃	石 井 護	〃	開成町 まちづくり部長
監 事	小 林 明	〃	伊勢原市 土木部参事 (兼) 下水道業務課長
〃	猪 鼻 久 義	〃	公 認 会 計 士

エ 評 議 員 一 覧 表

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	氏 名	常勤・非常勤の別	備 考
評 議 員	斉 藤 進	非 常 勤	産業能率大学 情報マネジメント学部教授
〃	石 川 智 康	〃	技術士(上下水道部門) 石川技術士設計事務所所長
〃	古 川 交 未	〃	相模原市 都市建設局 土木部長
〃	石 田 晃 一	〃	平塚市 土木部長
〃	大 野 速 雄	〃	小田原市 副市長
〃	塩 崎 威	〃	茅ヶ崎市 下水道河川部長
〃	萩 原 勝 治	〃	神奈川県 湘南地域県政総合 センター副所長(兼)総務部長
〃	内 田 賢 治	〃	神奈川県 県西地域県政総合 センター副所長(兼)総務部長
〃	横 溝 博 之	〃	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 下水道課長

3 理事会開催状況

<第1回理事会>

- 日 時 : 平成 24 年 6 月 11 日 (月)
- 場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社 (平塚市)
- 出席者数 : 理事 5 人 監事 1 人
- 議 事 : (第 1 号議案) 平成 23 年度事業報告書及び決算報告書について
(第 2 号議案) 役員に支給する期末手当に関する特例
(第 3 号議案) 評議員会の招集について
- 報告事項 : ・平成 23 年度収支補正予算書について
・平成 23 年度経営改善計画実績状況報告書
・東京電力の電気料金値上げについて

<第2回理事会>

- 日 時 : 平成 24 年 6 月 22 日 (金)
- 場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社 (平塚市)
- 出席者数 : 理事 6 人 監事 1 人
- 議 事 : (議案) 理事の役職等の選定について
- 報告事項 : ・平成 24 年度事業計画書及び収支予算書
・平成 23 年度事業報告書及び決算報告書
・平成 23 年度経営改善計画実績状況報告書
・東京電力の電気料金値上げについて
・東日本大震災に係る当公社の対応について

<第3回理事会>

- 日 時 : 平成 25 年 3 月 27 日 (水)
- 場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社 (平塚市)
- 出席者数 : 理事 8 人 監事 2 人
- 議 事 : (第 1 号議案) 平成 25 年度事業計画書
(第 2 号議案) 平成 25 年度収支予算書
- 報告事項 : ・平成 24 年度第 2 回理事会以降の理事長及び常務理事の業務執行
状況報告
・専決事項の報告 (平成 24 年度収支補正予算)
・職員給与規程等の一部改正
・個別業務報告
・人事評価システムの実施
・包括的民間委託に向けての取組
・電気料金の値上げ及び節電対策
・放射能対策及び放射性物質を含む焼却灰の搬出
・地震及び津波対策等危機管理体制の充実

4 評議員会開催状況

<第1回評議員会>

日 時 : 平成24年6月22日(金)

場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社(平塚市)

出席者数 : 評議員6人 理事3人 監事1人

議 事 : (第1号議案)平成23年度決算書類について
(第2号議案)評議員、理事及び監事の選任について

報告事項 : ・平成23年度事業報告書
・平成23年度経営改善計画実績状況報告書
・東京電力の電気料金値上げについて
・東日本大震災に係る当公社の対応について

5 情報公開

当公社は、四之宮管理センターに「情報提供コーナー」を設置し、以下に記載する各種公社情報について県民の自由閲覧に供しています。

<各種の公社情報(主な提供資料)>

- ・定款
- ・役員及び評議員名簿
- ・役員及び職員名簿
- ・事業報告書
- ・事業計画及び収支予算書
- ・貸借対照表
- ・正味財産増減計算書
- ・財産目録
- ・収支計算書
- ・監査報告書
- ・役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程
- ・経営改善計画
- ・各種パンフレット類
- ・その他下水道に関する情報誌 等